

第6回霧島市地域部活動推進協議会協議概要

1 開催期日

令和8年1月27日（火）午後2時から午後4時

2 開催場所

国分シビックセンター霧島市行政庁舎別館3階 教育委員室

3 会次第

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 協議（事務局説明含）
 - 地域展開の現状について
 - ア 前回までの内容確認（方向性等）
 - イ 前回からの進捗状況
 - ウ 国（スポーツ庁）の新たな動向
- (3) 今後の霧島市の地域展開について
- (4) その他
- (5) 閉会のあいさつ

4 報告概要

※ 事務局より説明

(1) 前回までの内容確認（方向性等）

ア 最終とりまとめの概略

- ・ 休日については、令和13年度までに原則、全ての学校部活動において地域展開を目指す。
- ・ 休日の地域展開とともに、平日の地域展開もあわせて取り組む。
- ・ 令和10年度終了後、中間評価を行い、改めて取組方針を定め、更なる改革を推進
- ・ 市が各種関係者の理解と協力のもと、平日・休日を通じた地域の実情等にあった望ましい在り方を検討し取り組む。

(2) 霧島市の学校部活動の実態について

- ア 霧島市の部活動加入率が低下している。
- イ 市街地域については、地域クラブ加入率が微増である。
- ウ 中山間地域については、部活動数が少なく、選択肢が少ない状態である。

(3) 第5回霧島市地域部活動推進協議会以降の霧島市の取組

ア 中山間地域の学校（溝辺中、陵南中、横川中、牧園中、霧島中、牧之原中）において校長説明会を実施した。

イ 校長説明会での確認内容

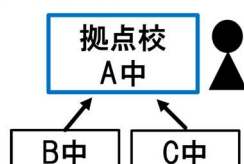
- ・ 近隣でできる競技種目を中心に始める。
- ・ 地域連携（拠点校、合同部活動）を中心に考え、部活動指導員の活用も検討する。

ウ 校長説明会で出された意見について

- ・ 中山間地域のみで対応できない場合は、他の地区との連携も行いたい。
- ・ 合同又は拠点校部活動で行う場合は、事前に入学説明会等で説明を行いたい。

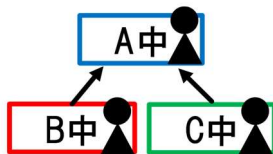
(4) 拠点校部活動と合同部活動の違いについて

ア 拠点校部活動



- ・ 顧問はA学校のみに配置する。
- ・ B中学校、C中学校には顧問や部活動は配置しない。
- ・ 毎日、拠点校で活動する。

イ 合同部活動



- ・ 顧問はA中学校、B中学校、C中学校それぞれに配置する。
- ・ 平日は各学校で練習することが可能である。
- ・ 週末に1箇所集まって活動する。

(5) 部活動指導員と外部指導者の違いについて

ア 部活動指導員



- ・ 監督として指導できる。
- ・ 顧問無しで引率ができる。
- ・ 指導料がある。

イ 外部指導者



- ・ コーチとして指導ができる。
- ・ 顧問無しで引率ができない。
- ・ 指導料がない。

(6) 国（スポーツ庁）のガイドラインについて

ア 部活動改革に関する新たなガイドラインの骨子

(ア) 根拠法令の確認

- ・ スポーツ基本法
- ・ 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法（令和7年改正）

(イ) 認定制度の構築（呼称：認定地域クラブ活動）

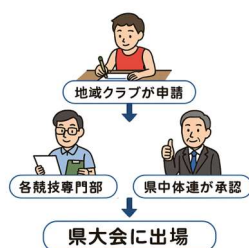
競技力向上を主目的としたチームやスクール等との区別及び質の担保等のため、国が定めた要件等に基づき、地域クラブ活動の運営団体や市町村等が地域クラブ活動の認定を行う仕組み

(ウ) 教師の兼職兼業の円滑化

中学校教師だけでなく、小学校教師や高校・特別支援学校の教師を含む。

(7) 中体連登録制度と認定制度の違い

【中体連登録制度】



【制度の変化について】

- ・ 誰が承認や認定を行うかの違い
- ・ 認定制度では、実態確認（活動時間、休養日、低廉な活動費、指導体制、学校連携等）を市町村が行う。

【認定制度】



(8) 今後の霧島市の地域展開について

ア 基本方針としては、市街地域におけるクラブ活動による地域展開と中山間地域における地域連携を進めていく。

イ 市街地域における地域展開については、①地域クラブ認定のための規約作成、②国や県のガイドライン及び方針を踏まえた霧島市の方針の作成、③新たな地域クラブ団体数の拡大等（少年団からの拡大、既存のスポーツクラブの種目拡大）について進める。

ウ 中山間地域における地域連携については、①令和9年度からスタート。②令和8年度12月までに連携可能な種目をまとめる。

5 質疑応答、意見交換概要

- (1) 多くの子どものニーズに答えられるように、多種目への取組ができるようなシステム作りが大切なのではないか。
- (2) 拠点校部活動を行う場合の練習場所までの移動について、検討が必要なのではないか。
- (3) 競技力向上を目指した部活動展開よりも新しい種目等を取り入れたスポーツ参加型の取組も必要なのではないか。
- (4) 少年団からクラブへの活動拡大は、利用する道具、場所や指導者の資格等の違いがあり、十分検討が必要なのではないか。
- (5) 他自治体の先進事例を参考にし、進めていただきたい。
- (6) クラブチームなど関係者は地域展開について内容を把握できているが、市民への周知が必要ではないか。